第２回
子どもの学びと不登校を考える
鳥取県民のつどい

1

子どもの学びと不登校を考える鳥取県民のつどい

第２回県民の集いの
開催に向けて

2

不登校の児童生徒数は
2018年度は過去最多16万人を超え、
鳥取県では約1000人。

まず、これを見て下さい。　これを見て、どの様に思われますか？

3

『不登校児童生徒』とは
「何らかの 心理的、情緒的、身体的あるいは社会的
要因・背景により、 登校しないあるいは
したくともできない状況にあるために
年間 30日以上欠席した者のうち、
病気や経済的な理由による者を 除いたもの」
（引用元：不登校の現状に対する認識　文部科学省）

苦登校…いじめなど様々な事情で不登校になっても
おかしくないくらい辛くて苦しい状態なのに、
不登校になれず、苦しみながら登校すること。

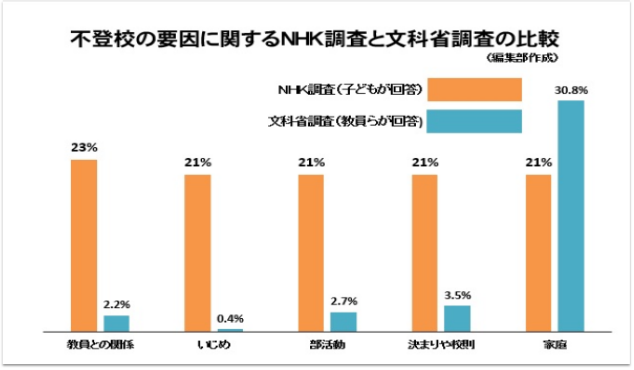
そして、不登校の定義について確認です。
つまり、学校は辛いけど、保健室や別室に行っている。１日数時間、朝だけ、夕方だけ、部活だけ…ちょっとだけなんだけど、頑張って行っている。また、適応指導教室、出席日数にカウントされる支援センターやフリースクール等に行っている子。最近は「苦登校」なんて言われていますが、そんな子達はカウントされていません。
この、苦登校と言われる状態で苦しんでいる子達が多く潜んでいる事も、ぜひ知って欲しいと思います。

4

1.2万 いいね！ シェア Tweet 138 Bookmark

小 中 大 5 いいね！

2019年05月29日 11:41 by kito-shin



ＮＨＫは5月3日～9日、2018年度に「不登校」もしくは「不登校傾向」があった中学生1968人のアンケート調査結果を発表した（調査協力・ＬＩＮＥリサーチ）を実施した。

不登校新聞

『不登校新聞』とは 日本で唯一の不登校専門紙です。不登校新聞の特徴は、不登校・ひきこもり本人の声が充実していることです。これまで１０００人以上の、不登校・ひきこもりの当事者・経験者が登場しま…

発行頻度　：月２回
読者登録　：誰でも読者登録可能
発行責任者：shiko
月額購読料：月額 759円 (税別)
創刊日　　：2012/11/14
最新発行日：2019/11/29

詳細を見る

お問い合わせ

記者

kito-shin

そしてこれは、不登校新聞の記事です。
NHKの調査結果と、文科省が発表した不登校の要因に関する調査では、大きな差があります。
NHKは本人達に聞いた結果。でも、文科省の発表はそうでは無かったんです…。
ネットで検索して頂ければ分かると思いますので、説明は省きますが、私達はこんな偏見や、誤解、誤った考え方に、追い詰められてきました。

5

絞り込み検索 | サイトマップ | English

文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

文字サイズの変更 小 中 大　サイト内検索 検索

会見・報道・お知らせ | 政策・審議会 | 白書・統計・出版物 | 申請・手続き | 文部科学省の紹介 | 教育 | 科学技術・学術 | スポーツ | 文化

トップ > 教育 > 小学校、中学校、高等学校 > 生徒指導等について > 不登校 > 不登校児童生徒への支援について > 「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」令和元年10月25日

「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」令和元年10月25日

元文科初第698号
令和元年10月25日

各都道府県教育委員会教育長　殿
各指定都市教育委員会教育長　殿
各都道府県知事　殿
附属学校を置く各国立大学法人学長　殿
小中高等学校を設置する学校設置会社を所轄する構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた各地方公共団体の長　殿

文部科学省初等中等教育局長
丸山　洋司

不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）

不登校児童生徒への支援につきましては，関係者において様々な努力がなされ，児童生徒の社会的自立に向けた支援が行われてきたところですが，不登校児童生徒数は依然として高水準で推移しており，生徒指導上の喫緊の課題となっております。
こうした中，「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」（以下「法」という。）が平成28年12月14日に公布され，平成29年2月14日に施行されました（ただし，法第4章は公布の日から施行。）。

次に、国の動きについても少し触れておきたいと思います。
文科省はこれまでにも「不登校は問題行動ではない」という通知を出していました。
しかし、それが地域に、学校に浸透していると感じられる事はまだまだ多くはありません。
そして、今年10月25日、文科省は再び、「不登校児童生徒への支援の在り方について」という通知を出しました。

6

記

1　不登校児童生徒への支援に対する基本的な考え方

(1)支援の視点

不登校児童生徒への支援は，「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく，児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて，社会的に自立することを目指す必要があること。また，児童生徒によっては，不登校の時期が休養や自分を見つめ直す等の積極的な意味を持つことがある一方で，学業の遅れや進路選択上の不利益や社会的自立へのリスクが存在することに留意すること。

(2)学校教育の意義・役割

特に義務教育段階の学校は，各個人の有する能力を伸ばしつつ，社会において自立的に生きる基礎を養うとともに，国家・社会の形成者として必要とされる基本的な資質を培うことを目的としており，その役割は極めて大きいことから，学校教育の一層の充実を図るための取組が重要であること。また，不登校児童生徒への支援については児童生徒が不登校となった要因を的確に把握し，学校関係者や家庭，必要に応じて関係機関が情報共有し，組織的・計画的な，個々の児童生徒に応じたきめ細やかな支援策を策定することや，社会的自立へ向けて進路の選択肢を広げる支援をすることが重要であること。さらに，既存の学校教育になじめない児童生徒については，学校としてどのように受け入れていくかを検討し，なじめない要因の解消に努める必要があること。

また，児童生徒の才能や能力に応じて，それぞれの可能性を伸ばせるよう，本人の希望を尊重した上で，場合によっては，教育支援センターや不登校特例校，ICTを活用した学習支援，フリースクール，中学校夜間学級（以下，「夜間中学」という。）での受入れなど，様々な関係機関等を活用し社会的自立への支援を行うこと。

その際，フリースクールなどの民間施設やNPO等と積極的に連携し，相互に協力・補完することの意義は大きいこと。

(3)不登校の理由に応じた働き掛けや関わりの重要性

不登校児童生徒が，主体的に社会的自立や学校復帰に向かうよう，児童生徒自身を見守りつつ，不登校のきっかけや継続理由に応じて，その環境づくりのために適切な支援や働き掛けを行う必要があること。

(4)家庭への支援

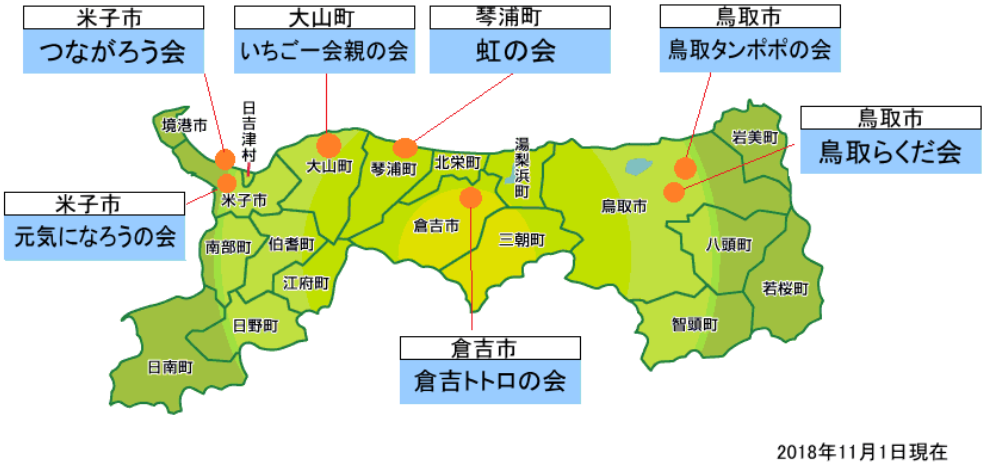
家庭教育は全ての教育の出発点であり，不登校児童生徒の保護者の個々の状況に応じた働き掛けを行うことが重要であること。また，不登校の要因・背景によっては，福祉や医療機関等と連携し，家庭の状況を正確に把握した上で適切な支援や働き掛けを行う必要があるため，家庭と学校，関係機関の連携を図ることが不可欠であること。その際，保護者と課題意識を共有して一緒に取り組むという信頼関係をつくることや，訪問型支援による保護者への支援等，保護者が気軽に相談できる体制を整えることが重要であること。

ここには、支援に対する基本的な考え方が書いてあります。しかし、現状はどうでしょうか？学校以外の学びの場とされるフリースクールや教育支援センターは少ない。例え合う場所があっても、出席日数としてカウントされまない。学校に行かないと内申点が低くなる為、進学の際に不利益がある。さらに、自宅で学べるICTなどを利用した通信教育が認められつつありますが、対応できる人数は限られ、全てを賄う事は出来ません。それに、そんな情報は届いて来ません。必要である筈に私達に、募集案内の声も掛かりません。それは、なぜでしょうか…？？

7

子どもが学校に行けなくなった…。それはまるで、長い先の見えないトンネルに迷い込んだかのような気持ちになり、親も子も悩みます。自分を責めたり、相手を責めて喧嘩になったり、家族関係も崩れやすくなります…。それはきっと、先が見えない不安が大きいからだと思います。誰にでも相談出来る訳じゃないし、例え話が出来たとしても、中々共感は得られない。「それでも学校は行った方が良いと思うよ…」なんて言われて更に傷付く。
心配して、良かれと思って言って下さったであろう言葉に、また落ち込む事も多々ありました。学校ともうまくいかず落ち込む日々…
私がそんな時に見つけたのが、不登校の親の会でした。

8



皆さん、鳥取県に不登校の子を持つ親の会がこんなにあるって知っていますか？
新しい会も増えていますが、私が悩んでいた5年前でも、3つはありました。

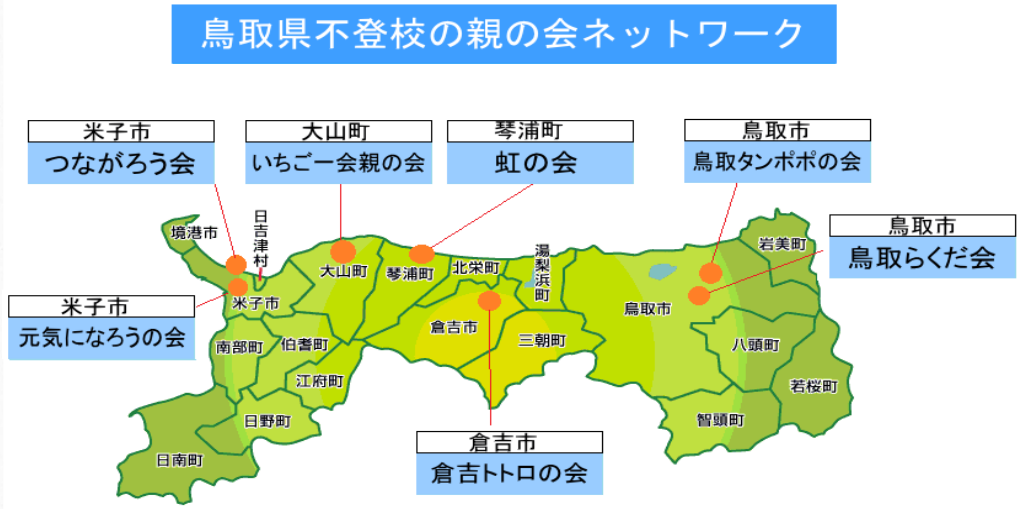
9

不登校の親の会主催のイベント

ピアサポート…同じ症状や悩みをもち、同じような立場にある
仲間が、体験を語り合い、回復を目指す取り組み。

ここには先輩保護者や理解者が居ます。「そうだよね～。分かるよ～」って共感して貰えるだけで安心する事が出来ました。
これは、ピアサポートといって、専門的にみても、とても効果のある事なんです。
私達はそれぞれの親の会で、色んな取り組みをして、情報を集めてきました。助成金を申請して講演会を企画したり、時には元気になれる様なイベントをしたり…
それぞれがそれぞれの自主活動で頑張ってきました。でも、個々の活動だけでは限界がある。

10



そこで、この実行委員会でも主になって動いて下さる方達や、各親の会の代表が集まり、
鳥取県不登校の親の会ネットワーク　が、出来ました。
これは、県のHPにもリンクを貼って頂いてます。

11

そして、約1年半前の2018年5月、それぞれの親の会の代表者が集まり、私達の願い、想い、そして子供たちの為に何が出来るかを話し合いました。そして、理解啓発の為、私達の声を届ける機会を作ろう！　　という事で
第1回子どもの学びと不登校を考える鳥取県民の集い　を開催する事になりました。私自身も体験発表をされて頂きました。
でも、自分の体験が誰かの役に立つなら…そう思いました。ここにいる実行委員の皆は、前に出て発表しなくても、その想いは皆が持っています。今頑張って動いても、我が子にその支援はきっと間に合わないだろう…。それが分かっているけど、それでも、自分と同じ思いをして欲しくない。辛さが分かるだけに、みんなその想いで頑張っています。

12

第1回　子どもの学びと不登校を考える鳥取県民の集い
「語り合おう　つながろう　はじめよう」

そして1年前、こうやって第1回目を開催することが出来ました。
120人以上という、予想を上回る来場者数で、皆さんが真剣に聞き、考えて下さり、ここでも新たな繋がりが出来、やって良かったなぁ…と思いました。

13

私達は、学校を否定するつもりはありません。私自身、学校教育で育ってきました。良い所がたくさんある。学校が必要な子も多くいる。
それも知っています。だけど、そこに合わない子だっている。行きたくてもそれが出来ない子だっている。
「多様性」「個々の対応」「みんな違ってみんないい」そんな対応が一番できないのは学校という場所では無いでしょうか？
…であるとするならば、そこを変える事が難しいのであれば、他の場所に頼れば良い。

14

第 2 回『語り合おう つながろう 続けよう』

「子どもを真ん中にして子どもファーストの学びへ」

1.不登校は問題行動ではない。
　　子どもは休んでもよい
2.学校復帰のみを目的としない。
　　学校以外の場の重要性を認めた
3.ICT等を活用した自宅学習も出席扱いになる

そんな話が、これからもざっくばらんに、そして前向きに出来れば良いなぁ…。そんな鳥取県にしたいなぁ…。
そんな思いで本日を迎えました。
何よりも大事なのは、子どもの笑顔です。子どもの幸せです。どんな支援も、決まりも、通知も、まずは当事者達の声を聞く事から始めて欲しいと思います。
今日は、皆さんと有意義な時間を一緒に過ごせたらと思います。

15

16